孵化の發育速度は平常温度域に於て種属的に異なる。之を 28°C の例に見ると *X. cheopis* の孵化は平均約 112 時間, *N. fasciatus* 78 時間, *M. anisus* 70 時間等に観察した。次に孵化發育と温度関係を見ると最高孵化温度は *X. cheopis* の 35°C, *M. anisus* 33°C, *N. fasciatus* 31°C となつた。然れ共、羽化までの發育可能な温度は何れも之等より低く *X. cheopis* 33°C, *M. anisus* 31°C, *N. fasciatus* 29°C となる。又孵化までの發育所要日数は前述の如くであるが、種属的に温度域によつて著しく差異が見られる。30°C 前後にては各種共殆ど 3 日位で孵化するが、*X. cheopis* は低温には他種よりは急に遅延して 20°C にては既に 10 日を要するも、*M. anisus* 及び *N. fasciatus* 等は 6 日にて孵化するを見た。蚤卵子の孵化發育上、湿度との関係を各温度域に見ると 27°C に於て三種共に 32% まで孵化を見るが、斯る低湿度にては孵化直後に、或は孵化途上に死滅し且つ孵化までの發育所要時間も他の高湿度域よりは遅延する。又幼虫の發育は孵化可能湿度よりは更に狭く、*X. cheopis* は 53% までに羽化發育し得るも、*M. anisus* 76% に、*N. fasciatus* は 87% 以下の低湿度域には發育し羽化することは困難であつた。然れ共、23°C 及び 20° 等の温度の低下と共に次第に低湿度に發育し得る傾向がみられた。

(神戸市衛生研究所)

日本産鼠虱の分類学的研究

金子 清 俊

Kaneko, K.: The morphological studies on the murine lice in Japan

我が国の各種動物に寄生する虱の分類学的研究に就いては、内田清之助、杉本正篤両氏の他数名の業績があるのみで虱上科 Muroidae に寄生する虱類に就いては殆んど知られていなかった。1950 年及び 1954 年に伝研佐々学氏が虱虱の 1 新種を加えて 2 属 6 種を初めて報告している。著者は Muroidae 及び Soricidae に寄生する虱の中更に 3 種の日本未記録種を加えて 2 属 9 種の虱に就いて、其の形態の特徴、宿主関係、変異等を報告する。

1. *Rattus rattus*, *Rattus norvegicus* には *Hoplopleura oenomydis* 及び *Polyplax spinulosa* の 2 種が寄生する。2. *Apodemus speciosus*, *Apodemus argenteus* には *Hoplopleura affinis* 及び *Polyplax serrata* の 2 種が寄生する。3. *Microtus montebelli* には *Polyplax abscisa* Fahrenholz 及び *Hoplopleura acanthopus* の 2 種が寄生するが、前者は日本未記録種である。特徴は雌では *Polyplax spinulosa* と区別する事困難であるが雄の生殖器を比較すると pseudopenis が明かに *Polyplax*

と異なるので区別する事が出来る。4. *Eothenomys smithii* には現在迄 *Hoplopleura acanthopus* の 1 種であるが *Microtus* に寄生するものと比較すると数個所の特徴が異なる様に思われるが一応 *Hoplopleura acanthopus* と同定しておく。5. *Micromys minutus* には *Hoplopleura longula* (Neumann) の 1 種で日本未記録種である。その特徴は第 3 側板の背腹両面共に後縁が平である事と側板上の腹側の毛が非常に短い。6. *Mus caroli* には *Hoplopleura intermedia* Kellogg and Ferris の 1 種で日本未記録種である。特徴は第 7 側板の後縁が非常に深く凹彎し腹側の先が尖つている。7. *Suncus murinus* には *Polyplax reclinata* の 1 種である。その特徴は側板毛の背腹側両方共非常に長いので 1 見して他と区別出来る。上記の宿主の中同一個体に *Hoplopleura* と *Polyplax* の 2 属が同時に寄生している事も屢々認められる。尙福島県下にて捕獲した *Eothenomys smithii* より採集せる *H. acanthopus* は側板上の毛の間隔が狭く、又第 6 側板の腹側の後縁に切れ込がある。新島にて捕獲した *Rattus norvegicus* より採集した *H. oenomydis* は側板上の気門が Ferris の記載に比して非常に大きい。以上の 2 種と *Hoplopleura affinis* 胸板の正中前方突起の著明なものを個体変異とするか又は亜種とするかは今後更に検討を要する問題と思う。本報告では *Hoplopleura akanezumii* Sasa を *Hoplopleura affinis* に含めた。

(東京医科歯科大学・医動物)

北海道の鼠虱

大野善右衛門 長谷川 恩

Ōno, Z. & Hasegawa, M.: Note on the blood-sucking lice (Anoplura) of rodents in Hokkaido, Japan

私達は最近北海道に発見せられた新リケッチャ症エゾ熱に関する疫学的研究の一環として北海道産虱類の外部寄生虫の調査を始めた。本調査の第一段階として先づ当研究所に保管せられている標本類の再検討を試みたところ若干注目すべき事実は見出された。こゝには虱虱についての結果を報告する。調査標本は約 250 個で之等は *Rattus* 2 種, *Apodemus* 2 種, *Clethrionomys* 2 種, 計 6 種の虱から得られたものである。虱虱は次の 2 属 6 種に分類せられた。右に宿主を記した。① *Polyplax spinulosa* (Burmeister), *Rattus* spp. ② *Polyplax serrata* (Burmeister), *Apodemus* spp. ③ *Polyplax* sp., *Clethrionomys* ④ *Hoplopleura acanthopus* (Burmeister), *Clethrionomys* ⑤ *Hoplopleura akanezumii* Sasa?, *Apodemus* ⑥ *Hoplopleura oenomydis* Ferris, *Rattus*.